

津市監第271号  
令和2年11月17日

津市長 前 葉 泰 幸 様

津市監査委員 大 西 直 彦  
津市監査委員 駒 田 修 一  
津市監査委員 安 藤 友 昭  
津市監査委員 八 太 正 年

令和元年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について（提出）

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第2項の規定に基づき審査に付された下記の令和元年度財産区会計歳入歳出決算の審査意見について、別添のとおり提出します。

記

- 1 令和元年度榊原財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 2 令和元年度河内財産区会計歳入歳出決算の審査意見
- 3 令和元年度波瀬財産区会計歳入歳出決算の審査意見



令和元年度

榑原財産区会計  
歳入歳出決算審査意見書

津市監査委員

## 凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
  - 「－」・・・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
  - 「△」・・・・・・・・金額、比率において、負数のもの

## 令和元年度榊原財産区会計歳入歳出決算審査意見

### 第1 審査の対象

審査の対象は、令和元年度榊原財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

### 第2 審査の期間

審査の期間は、令和2年9月7日から同月23日までである。

### 第3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

### 第4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

#### 1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は2,504万3千円（表1参照）、歳出決算額は2,360万7千円（表2参照）である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、次のとおりである。

#### (1) 歳入

歳入の内訳は表1のとおりで、決算額の主なものは、財産収入2,336万9千円である。

表1 歳入内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	令和元年度				平成30年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	22,401	23,369	93.3	104.3	22,896	98.8	473	2.1
繰入金	1	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰越金	1,666	1,666	6.7	100.0	210	0.9	1,456	693.3
諸収入	2	7	0.0	350.0	66	0.3	△59	△89.4
計	24,070	25,043	100.0	104.0	23,172	100.0	1,871	8.1

(2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、財産費 1,837 万 5 千円、積立金 232 万 5 千円である。

表 2 歳出内訳表 (単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	令和元年度				平成30年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	1,785	1,551	6.6	86.9	1,439	6.7	112	7.8
総 務 費	699	657	2.8	94.0	292	1.4	365	125.0
財 産 費	18,475	18,375	77.8	99.5	17,437	81.1	938	5.4
積 立 金	2,325	2,325	9.8	100.0	1,495	7.0	830	55.5
諸 支 出 金	700	700	3.0	100.0	842	3.9	△ 142	△ 16.9
予 備 費	86	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	24,070	23,607	100.0	98.1	21,505	100.0	2,102	9.8

2 財産に関する調書

財産の令和元年度中の増減高及び令和元年度末現在高は、次のとおりである。

(1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、令和元年度中に 18 平方メートル減少し、令和元年度末現在高は 1,226 万 4,018 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、令和元年度中に 2,119 立方メートル増加し、令和元年度末現在高は 12 万 7 千 696 立方メートルである。

出資による権利については、令和元年度中の増減はなく、令和元年度末現在高は 84 万円である。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成30年度末現在高	令和元年度中増減高	令和元年度末現在高	
土 地	公共用財産(その他の施設)	m <sup>2</sup>	918	0	918	
	山 林	直 営	m <sup>2</sup>	1,860,307	0	1,860,307
		貸 付	m <sup>2</sup>	10,402,810	△ 18	10,402,792
	合 計		m <sup>2</sup>	12,264,035	△ 18	12,264,018
立木の推定蓄積量		m <sup>3</sup>	125,577	2,119	127,696	
出資による権利		千円	840	0	840	

(2) 物 品

物品は軽貨物自動車で、表 4 のとおり令和元年度中に増減はなく、令和元年度末現在高は 2 台である。

表4 物品の状況

(単位：台)

区 分	平成30年度末現在高	令和元年度中増減高	令和元年度末現在高
軽貨物自動車	2	0	2

## (3) 基金

基金は榊原財産区財政調整基金で、表5のとおり令和元年度中に232万5千円増加し、令和元年度末現在高は3,523万6千円である。

表5 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成30年度末現在高	令和元年度中増減高	令和元年度末現在高
榊原財産区財政調整基金	32,911	2,325	35,236

## 3 まとめ

財産区の管理、処分等については、地方自治法第296条の5に規定する財産区運営の基本原則等に十分に配慮され、今後とも適正かつ効率的な予算執行に努められたい。





令和元年度

河内財産区会計  
歳入歳出決算審査意見書

津市監査委員

## 凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
  - 「-」・・・比率において、±1,000%以上のもの
  - 「△」・・・金額、比率において、負数のもの

## 令和元年度河内財産区会計歳入歳出決算審査意見

### 第1 審査の対象

審査の対象は、令和元年度河内財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

### 第2 審査の期間

審査の期間は、令和2年9月7日から同月23日までである。

### 第3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

### 第4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

#### 1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は31万3千円（表1参照）、歳出決算額は22万2千円（表2参照）である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

#### (1) 歳入

歳入の内訳は表1のとおりで、決算額の主なものは、繰入金23万4千円、繰越金7万9千円である。

表1 歳入内訳表

(単位：千円・%)

区分 予算科目(款)	令和元年度				平成30年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	1	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
繰入金	234	234	74.8	100.0	204	68.0	30	14.7
繰越金	80	79	25.2	98.8	96	32.0	△17	△17.7
諸収入	5	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	320	313	100.0	97.8	300	100.0	13	4.3

## (2) 歳 出

歳出の内訳は表 2 のとおりで、決算額の主なものは、議会費 20 万 3 千円、財産費 1 万 7 千円である。

表 2 歳出内訳表 (単位：千円・%)

区分 予算科目(款)	令和元年度				平成30年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議 会 費	208	203	91.4	97.6	202	91.4	1	0.5
総 務 費	27	2	0.9	7.4	1	0.5	1	100.0
財 産 費	74	17	7.7	23.0	17	7.7	0	0.0
基金積立金	1	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
予 備 費	10	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	320	222	100.0	69.4	221	100.0	1	0.5

## 2 財産に関する調書

財産の令和元年度中の増減高及び令和元年度末現在高は、次のとおりである。

### (1) 公有財産

公有財産の状況は表 3 のとおりで、土地と建物の面積に増減はなく、令和元年度末現在高は、土地が 13 万 278 平方メートル、建物が木造 1 棟 63 平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、令和元年度中に 355 立方メートル増加し、令和元年度末現在高は 2 万 3,446 立方メートルである。

表 3 公有財産の状況

区 分		単位	平成30年度末現在高	令和元年度中増減高	令和元年度末現在高
土地	山 林	m <sup>2</sup>	130,278	0	130,278
建物	河 内 公 民 館	m <sup>2</sup>	63	0	63
立木の推定蓄積量		m <sup>3</sup>	23,091	355	23,446

### (2) 基金

基金は河内財産区財政調整基金で、表 4 のとおり令和元年度中に 23 万 4 千円減少し、令和元年度末現在高は 401 万 3 千円である。

表 4 基金の状況 (単位：千円)

区 分	平成30年度末現在高	令和元年度中増減高	令和元年度末現在高
河内財産区財政調整基金	4,247	△ 234	4,013

### 3 まとめ

令和元年度は、財政調整基金からの繰入金が歳入全体の 74.8 パーセントを占めており、今後においても、歳入全体に占める繰入金の比率は高くなるものと考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。



令和元年度

波瀬財産区会計  
歳入歳出決算審査意見書

津市監査委員

## 凡 例

- 1 文中及び表中に用いる金額は、原則として千円未満を四捨五入した。
- 2 文中及び表中に用いる比率は、原則として小数点以下第2位を四捨五入した。
- 3 文中及び表中に用いる面積は、原則として1平方メートル未満を四捨五入し、体積は、原則として1立方メートル未満を四捨五入した。
- 4 上記のように表記した結果、文中及び表中の合計数値とその内訳の累計値とは、一致しない場合がある。
- 5 表中の符号の用法は、次のとおりである。
  - 「0」「0.0」・・・金額、比率において、零又は該当数値がないもの若しくは単位未満のもの
  - 「－」・・・・・・・・比率において、±1,000%以上のもの
  - 「△」・・・・・・・・金額、比率において、負数のもの



## 令和元年度波瀬財産区会計歳入歳出決算審査意見

### 第1 審査の対象

審査の対象は、令和元年度波瀬財産区会計歳入歳出決算、決算に関する証書類、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書及び財産に関する調書である。

### 第2 審査の期間

審査の期間は、令和2年9月7日から同月23日までである。

### 第3 審査の方法

審査の方法は、同会計の歳入歳出決算について、主に次の諸点に着眼し、関係書類により照合審査するとともに、関係職員に説明を求め、例月現金出納検査の結果も参考とした。

- 1 決算の計数は、正確に表示されているか。
- 2 決算書等は、法令の定めるところにより、適正に作成されているか。
- 3 予算は、適正に執行されているか。

### 第4 審査の結果

審査の結果、同会計の歳入歳出決算の計数は正確で、決算書等はいずれも適正に作成されており、予算の執行については、適正に執行されているものと認めた。歳入歳出決算の状況等は、次のとおりである。

#### 1 歳入歳出決算の状況

歳入決算額は80万3千円（表1参照）、歳出決算額は74万6千円（表2参照）である。

歳入及び歳出それぞれの内訳は、以下のとおりである。

#### (1) 歳入

歳入の内訳は表1のとおりで、決算額の主なものは、繰入金42万8千円、財産収入13万8千円である。

表1 歳入内訳表

（単位：千円・％）

区分 予算科目(款)	令和元年度				平成30年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	予算比				
財産収入	139	138	17.2	99.3	138	17.9	0	0.0
繰入金	479	428	53.3	89.4	499	64.6	△71	△14.2
繰越金	236	237	29.5	100.4	18	2.3	219	-
諸収入	1	0	0.0	0.0	118	15.3	△118	△100.0
計	855	803	100.0	93.9	773	100.0	30	3.9

## (2) 歳出

歳出の内訳は表2のとおりで、決算額は、議会費48万1千円、総務費26万5千円である。

表2 歳出内訳表

(単位:千円・%)

区分 予算科目(款)	令和元年度				平成30年度		対前年度決算	
	予算現額	決算額			決算額	構成比	増減額	増減率
		金額	構成比	執行率				
議会費	535	481	64.5	89.9	471	87.9	10	2.1
総務費	270	265	35.5	98.1	65	12.1	200	307.7
予備費	50	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	855	746	100.0	87.3	536	100.0	210	39.2

## 2 財産に関する調書

財産の令和元年度中の増減高及び令和元年度末現在高は、次のとおりである。

### (1) 公有財産

公有財産の状況は表3のとおりで、土地の合計面積に増減はなく、令和元年度末現在高は100万9,635平方メートルである。

立木の推定蓄積量は、令和元年度中に1,934立方メートル増加し、令和元年度末現在高は12万8,293立方メートルである。

出資による権利については、増減はなく、令和元年度末現在高は58万6千円である。

表3 公有財産の状況

区分		単位	平成30年度末現在高	令和元年度中増減高	令和元年度末現在高	
土地	宅地	m <sup>2</sup>	1,208	0	1,208	
	雑種地・原野	m <sup>2</sup>	887	0	887	
	山林	直営	m <sup>2</sup>	1,006,806	716	1,007,522
		貸付	m <sup>2</sup>	733	△716	18
	合計	m <sup>2</sup>	1,009,635	0	1,009,635	
立木の推定蓄積量		m <sup>3</sup>	126,359	1,934	128,293	
出資による権利		千円	586	0	586	

### (2) 基金

基金は波瀬財産区財政調整基金で、表4のとおりで、令和元年度中に41万6千円減少し、令和元年度末現在高は1,273万円である。

表4 基金の状況

(単位：千円)

区 分	平成30年度末現在高	令和元年度中増減高	令和元年度末現在高
波瀬財産区財政調整基金	13,146	△ 416	12,730

### 3 まとめ

令和元年度は、財政調整基金からの繰入金が歳入全体の53.3パーセントを占めており、今後においても、同基金からの繰入金を必要とする状況が考えられることから、より効率的な財政運営に取り組まれるよう望むものである。

なお、木材の利活用など新たな歳入確保についても検討を望むものである。